

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2024年1月）議事録

日時：2024年1月26日（金）午後5時00分～7時00分

場所：ZoomによるWeb会議

議長：永富良一理事長

出席者：永富良一理事長、内藤久士副理事長、
小熊祐子副理事長、中田由夫常務理事、
赤間高雄、井上 茂、甲斐裕子、勝川史憲、
後藤勝正、下光輝一、須永美歌子、竹森 重、
田畑 泉、田村好史、内藤義彦、中里浩一、
成田和穂、檜垣靖樹、前田清司、町田修一、
宮川俊平、宮下政司各理事、
家光素行、石井好二郎各監事、
松山郁夫第78回大会長、
山津幸司第78回大会実行委員長

欠席者：岡浩一朗、浜岡隆文、宮地元彦各理事、
清田 寛、小林康孝各監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（永富理事長）

理事会終了時までには訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 定款改定について（井上総務委員長）

井上総務委員長より資料に基づき、定款の改定条文案および学会員の賛同を得る手順について提案され、議場に諮られた。主な改定箇所は、前回理事会で承認された通り、評議員をもって社員総会での議決権を持つ社員とすることに関わる条文であることが説明された。下光理事より意見が述べられ、全学会員に対してこの改定がどのような影響を及ぼしうのかを明確にして説明する必要がある旨、意見が述べられた。また、当学会の評議員は選挙ではなく推薦により選任されているため、評議員が議決権を有する仕組みにする場合、民主性が保たれるかどうかを検討する必要がある旨、意見が述べられた。この点に関連し、後藤理事より、定款条文中にある、評議員を「選出」という表現について、見直しの余地があることが指摘された。竹森理事より、定款改定に関して全会員への説明および意見を集約する機会を設ける必要性について提起された。また、後藤理事より、当学会の現行定款が定められるに至った経緯や、他学会の定款や評議員制度も、今回の定款改定にあたって参考にすることが提起された。田村理事より、当学会の評議員制度は学術的な活動実績を重視した仕組みであり、これ自体は評議員選任の制度として妥当なものであると考えられることが指摘された。審議の結果、改定条文案と改定手順についての承認は見送りとなった。

3. 部会制の立ち上げについて（井上総務委員長）

井上総務委員長より資料に基づき、学会員の交流促進および大会の活性化のため、部会制の立ち上げが提案された。今年の佐賀大会での開催に向けて検討を進めることが承認された。

4. 学会規程の公開について（井上総務委員長）

井上総務委員長より資料に基づき、学会の透明性を高めるため、学会の内外に対して学会HP上で規程を公開することが提案され、承認された。

5. JPFMS 投稿規定「Aims and Scope」について（後藤編集委員長）

後藤編集委員長より資料に基づき、各種データベースへの採録の条件を整備するため、Aims and Scopeの一部文言の修正が提案され、承認された。

6. 学会HPのセキュリティについて（後藤編集委員長）

後藤編集委員長より資料に基づき、各種データベースへの採録の条件を整備するため、セキュリティ向上のために学会HPのURLをhttps化することが提案され、承認された。

7. 学会誌特集号の掲載料について（後藤編集委員長）

後藤編集委員長より資料に基づき、学会誌企画の充実のため、特集号の掲載料の著者負担を免除することが提案され、承認された。特集号の計画は毎年の予算申請よりも早い時期に立案しているが、毎年見込み予算のもとで立案することとした。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（井上総務委員長）

資料に基づき、各種委員会より提出された分掌案が共有され、各種委員会において適宜加筆修正を行っていただくよう依頼があった。

2) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき、「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況等が報告された。

(1) 「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況
<投稿状況>(2023年8月1日～2023年12月31日)
「JPFMS」誌：新規投稿20編

(内海外2編・特集号4編含む)

2023/12/31現在、審査中7編(内特集号1編含む)

※前年同期間：新規投稿15編(内海外3編)

「体力科学」誌：新規投稿17編

2023/12/31現在、審査中10編

※前年同期間：新規投稿10編

<発行予定>

「JPFMS」誌

○Vol. 13, No. 2 (2024年3月25日発行)

特集号 (Review 3編 + 2編予定)

○Vol. 13, No. 3 (2024年5月25日発行)

Regular Article 3編

○Vol. 13, No. 4 (2024年7月25日発行)

Review 1編 + Regular Article 2編

「体力科学」誌

○Vol. 73, No. 2 (2024年4月1日発行)

原著2編 + (今後の受理論文)

(2) 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

2023年度ジャーナルコンサルティング

中間報告Webミーティング実施（12月20日）

(3) 掲載取り下げについて（2024年1月9日）

JPFISM論文の著者より、Accept後に「掲載取り下げ」のメールがあり、取り下げを受理した。

(4) JPFISM投稿規定へ「J-STAGE Data」の追加

J-STAGE Data利用に係る投稿規定改訂案がJSTより提示され、Availability of data and materialsにJ-STAGE Data (see below) or otherを追記し、関連項目としてJ-STAGE Dataを新たに設けることとした。

(5) JPFISM投稿規定へ「Advertising Policy」の追加

ジャーナルコンサルティングで指摘があった「Advertising Policy」を追加することとした。

3) 男女共同参画推進委員会

(甲斐男女共同参画推進委員長)

資料に基づき、以下について報告された。

(1) 佐賀大会における公募シンポジウムにおける男女共同参画の推進について

プログラム委員会および大会事務局との協議および永富理事長の許可を得て、公募シンポジウムの選考において女性（および若手）優遇を実施予定である。

(2) 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会への参画について

・第22期定時総会に委員メンバーが参加

(甲斐委員長, 根本委員)

日時：2023年12月4日(月) 14:00~14:30

・第1回運営委員会に委員メンバーが参加

(甲斐委員長, 根本委員)

日時：2023年12月4日(月) 14:30~15:00

2. 第78回（佐賀）大会の進捗状況

(山津第78回大会実行委員長)

山津実行委員長より、資料に基づき、第78回（佐賀）大会の進捗状況が報告された。

会 期：2024年9月2日(月)~9月4日(水)

会 場：佐賀大学本庄キャンパス

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

大会長：松山郁夫（佐賀大学教育学部教授）

3. 第78回（佐賀）大会の本部企画プログラムについて（須永プログラム委員長）

須永プログラム委員長より、資料に基づき、第78回（佐賀）大会での本部企画プログラムの計画が報告された。後藤理事より、本部企画プログラムに関する予算管理について質問があり、須永委員長より、大会事務局との間で調整済みである旨、回答があった。

4. 日本医学会連合領域横断的連携活動事業（TEAM事業）について（小熊副理事長）

小熊副理事長より、資料に基づき、TEAM事業への申請準備状況について報告された。

5. 日本医学会分科会用語委員会について（小熊副理事長）

小熊副理事長より、資料に基づき、2024年1月15日に開催された日本医学会分科会用語委員会について報告された。

6. その他

1) 他学協会等との連携について

永富理事長より、健康日本21推進全国連絡協議会や日本医学会から提供される各種情報をより適切に学会員へ共有する仕組みを整備したい旨が述べられた。また、AFISM, FIMSとの連携について今後必要に応じて見直していく旨が述べられた。

第47回（2025年度）公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ① 体育学，健康科学，人間工学，被服科学，運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術，およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学，およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
- ② 高校生から幼児までの教育機関に奉職しており，①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合，運動生理学的研究でなくとも，あくまで教育現場に於ける身近なテーマで，すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し，研究報告等に不慣れな人は，報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。
- ③ eAPRINなどの研究倫理教育を修了していること。

学術研究テーマ：

第一部 課題学術研究

本年度テーマ

- ① 「暑熱環境下における運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現するウェア，用品に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において，スポーツウェア，用品における暑熱環境下での運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現する幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ② 「運動時におけるウェアの快適性実現の手法，あるいは快適性を定量化する新たな手法や指標に関する研究」
運動前，運動中，運動後において，また外部環境により衣服内の環境は温度，湿度，発汗などにより大きく変化する。スポーツウェアの快適性を幅広い領域に対して実現する手法，ならびに快適性に寄与する機能性の新たな定量方法や指標に関する提言を頂きたい。
- ③ 「運動時のウェアの快適性と皮膚感覚に関する研究」
皮膚感覚には触覚，圧覚，温覚，冷覚，痛覚などが存在するが，より快適なウェアを設計するために，運動時に衣服が着用者に与える物理的な感覚による影響やそのメカニズムを把握する必要がある。
運動時に衣服が与える皮膚感覚に関する基礎的な研究として，例えば環境による違いや身体上の部位差，性差，年齢差など，運動時の快適なウェア設計のための基礎となる情報を提示いただきたい。
- ④ 「ウェアによる身体の動かしやすさへの影響に関する研究」
アスリートがパフォーマンスを最大限発揮するため，あるいは一般の方がより快適に運動するために，身体の動かしやすさは必要不可欠であるが，動かしやすさを定量的に評価した研究事例は少なく，その要素も明らかになっていない。
身体の動かしやすさを評価する方法の提案，衣服圧

や生地との摩擦抵抗との関連性など，様々な視点から動きやすさに関する提言をいただきたい。

- ⑤ 「屋外での運動時における太陽光線がパフォーマンスや快適性，リカバリーに及ぼす影響に関する研究」
屋外での運動時において，太陽光線に含まれる紫外線や赤外線，特に近赤外線による皮膚への影響などによる生理的快適性や，運動パフォーマンス，運動後のリカバリーに関する研究。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり，申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって，調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は2024年8月2日(金)編集局着

応募者は，所定の申請書に研究テーマ，分野区分の①～⑤ A～I，目的，内容および期待される成果等を簡潔に書き，2024年8月2日までに書面にて下記宛提出すること。

(申請書は所定用紙または当財団ホームページよりダウンロードし，A4サイズに出力して提出すること。自作や46回申請書以前の用紙の使用は認めない)

判読性確保のため，書式のフォントサイズは変更しない。

選考方法：

当財団の学術委員により厳正な採点選考を行い，学術委員会にて助成者を最終決定する。

応募書類送付先：

〒531-0041 大阪市北区天神橋7-5-8 HATA ビル
株式会社色染社 気付
(公財) 石本記念デサントスポーツ
科学振興財団 編集局

資料の請求および問い合わせ：

〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2
デサントジャパン(株)DISC OSAKA内
公益財団法人 石本記念デサントスポーツ
科学振興財団 編集局

TEL 080-1499-1719

ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>
E-mail zaidan@descente.co.jp

助成者の入選内定通知：

研究助成の対象として採択された研究者に対し，当財団より書面にて本人宛通知する。

(2024年11月下旬の予定)

なお，入選されなかった方には，12月下旬までに本人宛通知する。

助成金の交付：

第一部「課題学術研究」

入選100万円(研究期間別途設定，件数2～4件)を予定

第二部「自由課題学術研究」

最優秀入選100万円(2～3件)，優秀入選50万円(17～18件)合計20件を予定

受賞者は，2025年2月に贈呈式にて発表し，助成金は，3月31日までに交付する。

なお，研究助成は個人またはグループを対象とし，所属機関の間接経費，一般管理費は助成の対象にしない。その他の詳細については，当財団ホームページで確認のこと。

公益財団法人 明治安田厚生事業団 第40回 若手研究者のための健康科学研究助成

研究テーマ ※いずれか1件のみ応募可

- a. 指定課題：健康増進のための実装研究
エビデンスに基づく健康増進策を社会に普及・定着させる方法の開発とその評価を行う「社会実装型」の研究
- b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究

助成の金額

総額1,500万円

- a. 指定課題（1件以内）：1件につき300万円
- b. 一般課題（12件以内）：1件につき100万円

助成期間

2年間

応募資格

- ・健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方（医学・歯学の学士などを含む）、かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- ・指定課題：50歳未満の方^{*}、ただし第38回、第39回の受贈者は除く
- 一般課題：40歳未満の方^{*}、ただし当該研究助成の既受贈者は除く（第39回までの受贈者は応募不可）

^{*}2024年7月1日（応募開始）時点の年齢

応募締切

2024年9月26日（木）必着

主催 公益財団法人 明治安田厚生事業団
後援 日本体力医学会
明治安田生命保険相互会社

選考委員

委員長 井澤鉄也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授）

a. 指定課題

委員：荒尾 孝（公益財団法人明治安田厚生事業団 体力医学研究所名誉所長）

委員：小熊祐子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター教授）

委員：川上憲人（東京大学大学院医学系研究科特任教授・一般財団法人涼風会代表理事 理事長）

委員：島津太一（国立がん研究センターがん対策研究所行動科学研究部室長）

委員：中村陽一（立教大学名誉教授・東京大学大学院情報学環特任教授）

b. 一般課題

委員：井澤鉄也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授）

委員：井上 茂（東京医科大学公衆衛生学分野主任教授）

委員：北 一郎（東京都立大学人間健康科学研究科教授）

委員：永松俊哉（山野美容芸術短期大学美容総合学科教授）

委員：村岡慈歩（明星大学教育学部教授）

（敬称略・五十音順）

●応募方法：

応募申請書作成の前に当事業団ホームページ掲載の動画内容をご確認ください

申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください

作成した「申請者情報ファイル（エクセル形式）」と「研究計画ファイル（ワード形式）」を事務局宛にメールでお送りください

※パスワードが設定されたファイルや圧縮されたファイルは受理できません

●申請書ダウンロード：

URL: <https://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/>

●申請書送付：

E-mail: josei@my-zaidan.or.jp

●お問合せ：

公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所 研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

編 集 後 記

日本体力医学会の新体制が発足したのは2023東京シンポジウムが早稲田の大学で開催された昨年9月17日でした。その晩に新理事の初会合があるというので戸惑いながらも大隈記念講堂の門をくぐりました。すっかり暗くなった屋外と違い、日中のシンポジウムのほてりが熱く残る講堂内はまぶしいほどに明るく、あちらこちらで片づけの音が響き渡っていました。しばらく講堂内を彷徨っていると、段差のある狭くて薄暗い通路を幾重にも折れ曲がって地下の隠し部屋のようなところへ案内してもらえました。通り抜けて来た通路とはうって変わった荘厳な明るい部屋で、迂闊に足を踏み入れてはいけないあぶない集団の決起集会に来てしまったのではないかと私は大いにうろたえました。

あの時の新理事会が現理事会になって1年になろうとしています。地下の隠し部屋で旗揚げした理事会の活動状況は、学会会員の皆さんを含むこの体力科学誌をお読みになる皆さんにどれくらいの実感をもって伝わっているのでしょうか？理事会の会合があるたびに深く想い続れています。

本年元旦付で永富理事長の挨拶が発せられました。お読みになりましたか？73巻2号冒頭に掲載されていますし、学会ホームページの「学会の概要」にもあります。理事長はまず日本体力医学会の「核」を「体力」と「医学」をキーワードにしてまとめ、その上に立って学術集会の門戸をますます幅広い対象と領域に開いていくことを宣言しています。

9月2日から佐賀大学で開催の日本体力医学会大会は

現理事会のもとで開催される最初の学会大会です。会員の皆さんは学会の会場や隔々に理事会の匂いを捜し求めてみてください。良い匂いも悪い匂いもするはずですが、そこであなたが嗅いだものを、社員総会や地方会を通して、あるいは呼びかけがあった「同じ専門資格を有する会員の部会」や「若手会員の会」を通して学会本部に届けてください。会員の気持ちと意思が学会に命を吹き込みます。

教育機関に所属の方は多くの変革への対応にお忙しい日々と存じます。私も自分自身の研究どころでない日々を送っております。教育機関での変革が、学会員である教員や大学院生や卒業生、あるいは学会員となるはずの学生の変化を通じて学会の対応をも求める要因になっていると理解します。とはいえ、学会の変動は教育機関の変動に較べるとかなり緩衝されています。学術に大切なものを将来に残すために学会は教育機関の変革への一つの籠（たが）としての役割を果たせるのではないかと私は考えます。

これからの学術活動を担っていく大学院、大学、高校の学生さんたち、体力医学の取り組みに興味を覚えてくれたさまざまな立場の方々が、現在の体力医学を担う会員研究者たちと佐賀の学会大会に会し、真剣で誠実なやり取りを交わすことを楽しみにしています。その中に、学会の将来に向けた落ち着いた堅実な歩みが進むことを願うからです。

竹 森 重

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.73, No.4

体 力 科 学 第 73 卷 第 4 号

令和 6 年 7 月 25 日 印 刷

令和 6 年 8 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

後 藤 勝 正

一般社団法人日本体力医学会

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内

TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012

E-mail : jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1

鶴岡印刷株式会社内

TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120

E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1

鶴岡印刷株式会社